（様式第１号）

令和５年度　第１回芦屋市放課後子どもプラン運営委員会　会議録

日　時	令和５年８月１日（火）　１４：００～１６：００
場　所	芦屋市役所北館４階　教育委員会室
出席者	委員長　酒井　達哉 副委員長　柳生　加代子 委員　足立　裕一 委員　池内　くみ 委員　藤田　恭子 委員　渡辺　史恵 委員　武田　誠 委員　池田　恵
欠席者	委員　井岡　祥一 委員　野村　大祐
事務局	社会教育室長兼生涯学習課長　田嶋　修 生涯学習課　岸田　珠来 青少年育成課長　富田　泰起 青少年育成課係長　芝田　勇生 青少年育成課主査　山内　健
会議の公表	■　公　開　　□　非公開
傍聴者数	０人

１　会議次第

(1)　開会

(2)　委員自己紹介、事務局職員自己紹介

(3)　委員長、副委員長の選出

　　委員長１名・副委員長１名

(4)　放課後こどもプラン事業について

　ア　令和４年度放課後プラン利用状況等について

　イ　令和５年度の取組みについて

　ウ　その他

(5)　閉会

２　提出資料

・　【資料１】放課後プラン事業について

・　【資料２】校庭開放事業について

・　【資料３】あしやキッズスクエアについて

・　【資料４】令和５年度の取組みについて

３　委員長・副委員長の選出

芦屋市放課後プラン（子ども教室型放課後対策）事業実施要綱第１０条第２項に基づく互選により、酒井委員を委員長に、柳生委員を副委員長に選出。

４　議事内容

＜酒井委員長＞

議事に入る前に、放課後プランの概要について、生涯学習課より説明をお願いします。

＜田嶋室長＞

（配布資料：【資料１】に基づき、放課後プラン事業概要について説明）

＜酒井委員長＞

それでは引き続き、議事に入ります。令和４年度放課後プラン利用状況等についてです。まず、校庭開放事業概要及び実施状況について、生涯学習課より説明をお願いします。

＜事務局：田嶋室長＞

（配布資料：【資料２】に基づき説明）

＜酒井委員長＞

質疑につきましては、後ほどまとめてということでしたので、続きましてあしやキッズスクエア事業概要及び実施状況について、青少年育成課よりお願いします。

＜事務局：山内主査＞

（配布資料：【資料３】に基づき説明）

＜酒井委員長＞

ありがとうございました。これまでの２つのことについてご質問等はございませんか。

＜足立委員＞

キッズスクエアと学童は違うのでしょうか。

＜事務局：富田課長＞

放課後児童クラブ、いわゆる学童保育とキッズスクエアの 1 番大きな違いは対象が違うということになります。放課後児童クラブは、就労支援になります。親御さんがお勤

めされていて子どもを見ることができないご家庭の場合、放課後児童クラブでお預かりすることが事業の中心です。

キッズスクエアは、事業目的が放課後の居場所づくりと体験プログラムになります。そのため、キッズスクエアについては特に入会条件がないというところが大きな違いになっております。

＜足立委員＞

今後、キッズスクエアを中心にお話が進んでいくということでしょうか。

＜事務局：富田課長＞

先ほどご説明させていただきました放課後子どもプラン事業は、放課後や土曜日等の居場所づくりの取り組みになっております。以前は、子ども達だけで様々なところで遊ぶ場所がありましたが、今は安全面を考慮したり習い事に行ったり、子ども達の居場所づくりがなかなか難しいことが背景にあります。そのため、事業を学校内で実施することで保護者も子どもも安心して参加してもらえる、安心して遊んでもらえる居場所をつくろうというのが事業の大きな目的になっております。

＜酒井委員長＞

他にいかがでしょうか。

＜渡辺委員＞

校庭開放事業つきまして、開放をしない日に春休み・夏休み・冬休みとかありますが、これが開放はしないという決まりが明確にあるのか若しくは開放しても意味がないのでしょうか。親子で遊びに行くのはお休みの時期が適切ではないかと感じております。

＜酒井委員長＞

それでは、資料１ページにもございます開放しない日について、背景をお願いします。

＜事務局：田嶋＞

始まりは校庭開放事業放課後子どもプランという校庭開放事業になります。これは、放課後プランということで学校が終わった後の子どもたちの場所づくりのことです。その後、国から制度で子どもに様々な体験経験させる事業が創立され、キッズスクエア事業と校庭を開放して子どもを見守る校庭解放事業の２つに分かれました。３期休業で実施した場合、土曜日と同様に参加者が学校に集まっていただけるかという点がかなり難しいです。当初は、月曜日から金曜日までの放課後に実施していましたが、キッズスクエア事業と放課後開放事業と分かれた流れの中で、校庭開放事業は登録制ではなく、そ

の時来てくれた子が名簿を書いて自由に参加していただくという内容になっております。現在、土曜日では、天気の都合もありますが、参加人数が一定していない状態です。夏休みは様々な地域活動もあり、親御さんと一緒に過ごしていただく時間もありますので、現在はこちらに掲載しているとおり３期休業においては家庭での見守り、遊んでいただく場所作りのほうに重点を置いていると考えております。

＜酒井委員長＞
　いかがでしょう。なかなか難しいところで御理解いただけましたか。

＜渡辺委員＞
　市民開放をしている川西グランドでは年齢にしばりがないので、中学生等がよく遊んでいる風景が見られます。校庭開放もどうにか変化をつけないともったいない場所だと感じております。

＜酒井委員長＞
　ありがとうございます。
　今後もキッズスクエアとの兼ね合いもありますので、そのようなご意見があったということで継続してご検討していただけると思います。
　渡辺委員、次の議題に移りましょう。

＜渡辺委員＞
　はい。次はキッズスクエア事業についてです。今、運動会や入学式、卒業式の前日が中止になっている小学校が多いと思いますが、その必要があるのかなと感じています。運動会の前日は準備があり運動場では遊ばないとしても、室内の教室は利用可能ではないでしょうか。キッズスクエアさんと学校の準備をする先生方との都合で差支えがない場合は、開催の方向でも良いと思います。また、コロナになってから入学式を午前中でなく、午後に開催する小学校はありますか。その場合、午前中に高学年が下校して、午後から入学式になりますか。

＜事務局：山内主査＞
　今年は全小学校が午後に卒業式を実施したように思います。

＜渡辺委員＞
　それでは、午前中せっかく学校に来ているので、学童と同様にキッズスクエアでも実施して良いと思います。帰らす必要はあるのでしょうか。入学式に参列しているご家庭は、ご兄弟が低学年にいることが多いので困られると思います。また、小学校によって

は終日中止にしなくても良い時期になってきたと思います。

＜酒井委員長＞
　では、そのあたりの、特に運動会前日等は学校ごとによる対応という点でいかがでしょうか。

＜事務局：山内主査＞
　ご指摘ありがとうございます。
　現在のスケジュールの組み方としましては、学校の下校時刻や行事を参考に組んだものを、事前に各キッズスクエアのマネージャーや教頭先生に確認していただいています。教頭先生に確認する際には、お休みにしたほうがいい日や、その他教頭先生の目線で見た時にお気づきのこと等を教えてくださいという形で、各教頭先生とやり取りをさせていただいています。そのため、現場で調整をさせていただいているものからすると各学校で違いを出すことはできると思います。
　今年の運動会は全校６月の第１土曜日に実施したと思います。天気が不安定な際に運動場を使わないのでというお断りを入れたうえで開催をさせていただくことを各小学校の教頭先生に投げかけてお返事をいただくという形をとれば、実施できる学校があると思います。その辺は少し工夫していきながらやっていきたいと思います。

＜酒井委員長＞
　個別にご対応をいただいますようお願いいたします。
　他にどんどんご意見ございませんか。

＜渡辺委員＞
　あと１つよろしいでしょうか。これは、実際のスタッフたちの細かい内容なので、こちらの会議で適しているのかわかりかねますが、学童とキッズスクエアの両方に登録している人が、キッズスクエアが終わった後に学童に参加できるという連携のことについてです。いつも精道小学校の子どもたちは５時になってから学童の延長保育に参加していますが、例えば４時に行くことは可能でしょうか。

＜事務局：富田課長＞
　こちらにつきましては、現在キッズスクエアと放課後児童クラブ、学童保育の延長部分の連携というのをさせていただいております。５時まではキッズスクエアにご参加いただきます。放課後児童クラブの延長が５時から開始するので５時に放課後児童クラブに来ていただくということで現在お願いをしております。

＜渡辺委員＞
　また、１年生の連携がございません。
　２年生から連携が可能になるということで、時々１年生の保護者の方がもう少し早く連携を希望されている声を聞きます。もし可能であれば、より早い時期から連携を考えていただきたいです。あと、そのような連携をする場合は保護者がまず学童に電話連絡するのでしょうか。

＜事務局：富田課長＞
　電話か連絡帳で連絡を取っていただきます。

＜渡辺委員＞
　連携する日は、必ず保護者の方が学童に連絡します。子どもは学校が終わり学童の先生に今日は連携すると２回目の報告・確認をしてキッズスクエアに行き学童に行く流れになります。この時点で二重チェックしていますが、キッズスクエアに連携とは違う名札を持ってきたら、スタッフがまた学童の先生に連携の子が来たと連絡する必要があります。こちらの考えとしまして、二重チェックがあればもう不要なものとして省いてほしいです。もし、子どもが来なかったら学童の先生はキッズスクエアに行っていますかということで聞きに行きます。それで十分ではないかと思います。いかがでしょうか。

＜事務局：富田課長＞
　そこは課題の１つだと考えております。
　放課後児童クラブとキッズスクエアで１つ違うところがありまして、放課後児童クラブの場合は今日誰が来るか、何時に帰るかということを必ず事前に保護者から連絡を受けて把握をする形でしております。
　一方で、キッズスクエアは保護者が事前に参加しますと書いたカードがあれば、その児童はその日は自由に参加できる形になっておりまして､そこが１つ違う点になります。
　ご質問いただいておりますキッズスクエアが終わってから放課後児童クラブに参加していただく場合は、青少年育成課としまして移動時の安全確保が充分にできる仕組みということで導入しています。導入時にはキッズスクエアのスタッフにもお願いをして、今お話しいただいたように少し手間のかかる手順も踏んでおります。それをしてでも子どもがどこにいるのか、勝手に帰っていないか、しっかり安全面確保ができる状態で始めさせていただいています。
　ただ、そのような形で何年かさせていただき、段々今のような課題も出てきているので、今後現場のスタッフのご意見もお伺いしながら、連携は引き続きさせていただき、安全は確保したまま簡略化できるところは改善したいと思っております。
　１年生の参加につきまして、安全面を考慮して２年生から連携をさせていただいてお

ります。今すぐ１年生もっていうのは考えていませんが、引き続き安全をどう確保できるのかということを前提に研究をしていきたいと思います。

＜酒井委員長＞
　１年生は１学期と３学期では大きく違います。お試し期間的な形で３学期から始めるというのも良いかもしれませんので、検討を続けていただくということでよろしいでしょうか。
　それでは他の委員の皆さんいかがでしょうか。

＜藤田委員＞
　とても個人的な意見になりますが、今年子どもが６年生と１年生なので卒業式当日も夏休みのようにお弁当を持たせて午前から午後まで見ていただければ助かります。今ぐらいの時期から、PTA や学年代表やママ友たちと１年生を式の時間内に１人でお留守番をさせるのか若しくは託児を呼ぶのかということが話題に上がります。他にも、地方から親に来ていただく家庭もあります。
　実は、託児について、どこが仕切るかで結構揉めることがあります。PTA のお母さんたちが斡旋して呼んでいただきそこに申し込まれる人を募ったり、あなたたちでやってほしいと急に１人に振られたりこともあります。学校の図書室を借りられるか先生に聞いてそこに呼ぶという話もありますが、ややこしくなります。そのため、その時間帯にキッズスクエアがあれば個人的にはとても有難いです。

＜事務局：山内主査＞
　入学式の件と含めて学校とそれぞれ調整する他、各キッズのマネージャーさんの意見を聞きながらやっていきたいと思います。

＜柳生副委員長＞
　コロナ以前は、プログラムを指導する側の高齢者にとっても生きがいの場になっており、子ども達にとっても高齢者との接点が少なくなっているのでいい交流の場になっていたと思います。とても良い関係がありましたが、コロナでほとんどなくなりました。今、復活しようとしていますが、どのようなプログラムをしてくださる方がどのくらい残っているのかお聞きしたいです。こちらがまず１つ目になります。

＜酒井委員長＞
　キッズスクエアの体験プログラムがコロナ禍でどのように変化していけるのかというのと、それをどう復活できるのかという見通しの点でお願いします。

＜事務局：山内主査＞

まず 1 つ、体験プログラムの適正な数ということも考える必要があると思います。以前、とても多い時期がありましたが、その数まで戻すのがいいのか若しくは少しバランスを取った方がいいのかということも含めて考えております。ただ、今よりは増やしたいことは間違いないです。

また、実際に過去にしていただいた方の連絡先等のリストはあります。そのようなものを活用していきたいです。最近参加した NPO 法人が実施する勉強会では、他市の事例を紹介していただく時間がありました。例えば、同じ兵庫県の南あわじ市では放課後児童クラブと放課後子ども教室事業、芦屋市で言うキッズスクエアです。それらを統合して実施する中で地域の方に体験プログラムへの参加を募っていたり、チラシを作って配布やホームページに掲載していました。

私は、キッズスクエアに可能性を感じており、それこそ地域づくりにもなり得るような居場所だと思うことがあります。また、芦屋の地域づくりで子どもたちが、僕の街にはこんな人がいて、こんなお店があって、こんなことしている人がいると知り繋がることで、地域力が増していく可能性も感じています。そのような取り組みはやっていきたいと思います。

＜柳生副委員長＞

そのようなプログラムが充実していると、普段は学童保育に行っていますが、キッズスクエアのプログラムが面白そうだから延長のほうに行くという連携も増えていくだろうと期待しております。

このような連携を始める前の会議で、学童保育の先生たちと話し合う機会がありました。先程、富田課長が言われましたように本当にスタンスが違います。学童保育は責任が重く、参加人数と帰宅時間を把握して途中では帰さない感じがしました。キッズスクエアはその辺りも自由なので、子どもの希望で帰宅しても保護者に許可を得ることはありません。もし、プログラム等のそれぞれの事業が充実していけば、連携の流れができていくと感じています。

＜足立委員＞

自治会連合会で今ちょうどこの問題を取り上げています。教育問題の中で何かできることはないか、地域の者として学校と共に何かを手伝うことはないかと話が出ておりました。その中で、ちょうど今のようなことを理事会や連合会に言っていただければと思います。おはじき等の様々な特技を持っている人がいるので、連絡いただいたら理事会・連合会のほうで流して探ることができます。その会議の中で、教育委員会から要望があれば是非お声かけいただければ理事会で考えます。

＜事務局：富田課長＞
　ありがとうございます。

＜酒井委員長＞
　とにかく生涯教育という点でも、今話題になっていますように地域の中にいらっしゃる人材を活用されることで子どもたちにもその方々にとってもどちらも良い関係ができると思います。無理のない範囲でご検討いただけたらと思います。

＜池内委員＞
　プログラムや開催日を増やすことは、どこまで可能でしょうか。
　人材がいるのかどうかも伺いたいです。

＜事務局：山内主査＞
　プログラムは、だいたい月に各学校３、４回ぐらいです。ある週もあればない週もあり、もう少し増やせる伸びしろがあると思っております。
　開催日について、行事の都合以外に各学校のカラーやキッズスクエアのスタッフ、保護者、学校の運営を含めて調整次第というところがあります。しかし、先ほども話が出ましたが、例えば運動会の前日などスケジュール調整している中で、開催できそうだと思える日や行事はあります。

＜酒井委員長＞
　実情に沿って柔軟にご対応いただければと思います。
　令和４年度のキッズスクエアの主な体験プログラムで、ヤクルトの腸活教室というのがございます。ヤクルトがその場で飲めたり持って帰ったりできるのでしょうか。

＜事務局：山内主査＞
　ヤクルトさんも様々な工夫をしてプログラムを考えていただいています。今年の夏休みにも市内８校回っているところです。昨年はアレルギーのことを考えてジュースにしていただきました。今年はヤクルトの容器を再利用して作った定規などのグッズのお土産や最初の 30 分程度でプロジェクターを使用して腸活の話、昨年はヤクルトの容器でトントン相撲みたいなこともしていただいております。

＜酒井委員長＞
　やはり食の安全の点、または企業とどこまで提携するかという検討の部分が１つあると思います。どのプログラムを見ても個性的なプログラム、芦屋ならではのプログラムが多いと思いますので無理のないようにしていただけたらと思います。

それでは令和５年度の議題に移りたいと思います。

＜事務局：田嶋室長＞
（配布資料：【資料４】に基づき説明）

＜酒井委員長＞
令和５年度の取り組みについてご説明いただきました。
それではここで資料４についての質問、そしてまた全体的なことでもかまいませんのでご意見・ご質問ありましたらお願いします。

＜渡辺委員＞
朝から気象警報があるときは、子ども達は学校に来ていないので完全にお休みなります。しかし、途中から警報が出た場合が困ります。最近では警報が出た場合の学校の対応も変わってきています。キッズスクエアでは、去年も一軒一軒電話をすることがありました。そのようなことも大事ですが、学校の一斉メールを使い、キッズスクエアとしてメールを流していただくことを検討していただきたいです。今までは学校のだから使いにくいということを伺っていましたが、お借りするという形にしていただくということがこちらのお願いになります。保護者としてもメールが届いたら有難いと思います。

＜事務局：山内主査＞
仰っていただいているとおりで、おそらくキッズスクエアだけでミマモルメを発信させていただいたことは今までないと思います。あるのは同じ青少年育成課の中でやっている放課後児童クラブで、コロナで学級を閉めますとなった時に学校のミマモルメをお借りして問い合わせ先を青少年育成課としてお知らせさせていただきました。その時に、キッズスクエアのことを少し触れさせていただいた学校もあったと思いますが、今後は緊急事態の際により多くの方に知っていただけるような発信をしていきたいと思っております。

＜柳生副委員長＞
ここ最近芦屋市内でも、外国にルーツがある子どもが急速に増えているような印象があります。特に南側です。キッズスクエアや学童へ登録している方もあるように聞いていますが、やはりそのような場所に行くことで日本語の生活言語が入りやすくなると思います。しかし、その登録の仕方で少し苦労されているのではないでしょうか。途中から編入してくる子どもも多いので、多言語で登録の案内があるのかお尋ねしたいです。

＜事務局：山内主査＞

今、多言語では対応できていない状況です。
あと、日本語をまだ勉強中という方につきましては、積極的に何かでPRしているかということも特には行っておりません。ただ実際にそのような居場所として参加し、慣れていただくことは私も良いことだと思います。
一方で、全体を運営する中でバランスを取ることも１つ大切なことだと考えます。うまく考えながら工夫していけたらと良いと思います。

＜足立委員＞
潮見小学校・中学校の校区では、１１か国の子どもたちがいます。毎朝、ロシアや中国の子どもも挨拶をしており子供たち同士は繋がっています。子どもたちは遊びの中で言葉を覚えていくので、勉強の時には先生がついていても、キッズスクエア等に行って子どもたちと遊んでおれば、日本語にかなり触れて早く覚えると思います。

＜酒井委員長＞
新しい時代の課題だと思いますのでまた対応と検討をお願いします。外国にルーツがある保護者の方々もプログラムに入っていって、国際理解を進めていただくような長期的な視点でもお願いします。
本当にいろいろとご意見をいただきありがとうございました。
では、その他について生涯学習課よりお願いいたします。

＜事務局：岸田＞
（今後の日程について説明）

＜酒井委員長＞
本日は暑い中、ご参集いただきありがとうございました。
それぞれの立場で感じたことやご意見があるかと思います。その時は事務局に随時お寄せいただいて、すばらしい芦屋の放課後の子どもたちの取り組みを築いていただきたいと思います。
本日はご苦労様でした。これにて終わらせていただきます。
ありがとうございました。